

第4回学術集会終了のご挨拶

日本フォレンジック看護学会会員の皆様

秋冷の心地よい季節になって参りました。

お陰様で、平成29年9月2、3日に開催しました第4回学術集会の全プログラムを無事終了させて頂きました。大会にご参加下さいました会員の皆様に心から御礼申し上げます。

試行錯誤の企画・運営、また直前に発生した台風の影響も心配されましたが、当初の目標を大幅に上回る120名を超える参加を頂き、驚くとともに大変うれしく思っています。会員皆様の多大なご支援に感謝申し上げます。

本大会では、「災害におけるフォレンジック看護実践の可能性」をテーマに掲げました。フォレンジック看護のパイオニアである Vignia A. Lynch 先生をお迎えしての基調講演をはじめ、国際フォレンジック看護協会 (IAFN) から Sally J. Laskey さん、池田典昭先生、大澤資樹先生から多くの知見を頂きました。シンポジウムでは、実践家だからこそ語り得る数々の示唆を得ることができました。さらに大変限られた時間ではありましたが、16題の演題発表においては、熱のこもった討議が行われました。これを契機に、フォレンジック看護学の発展となることを心より期待しています。

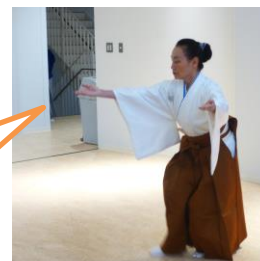


工夫の一端として、会場には日本の伝統文化の紹介としてお抹茶席を設け、また懇親会では、詩誦を披露して頂きました。いずれも、多くの方にお褒めの言葉を頂戴しています。



さらにもっと多くの方とフォレンジック看護を共有できればという思いで、主催者はロゴ入りシャツを着用、また参加者にバッグを配布し、社会での「フォレンジック

ク看護見える化」に取り組んでまいりました。主催者一同、この努力が会員増につながることを祈りつつ、リンチ先生の「Peace and Justice」、人々の健康と安全を守ることができるようフォレンジック看護の科学的発展に貢献していきたいと思っております。



最後に、福岡看護大学関係者の方々、そして協賛して頂いた多くの企業、研究機関の皆様のご支援ご協力に心より感謝申し上げます。



平成 29 年 9 月 吉日

大会長 日本赤十字九州国際看護大学 柳井圭子
実行委員長 福岡看護大学 森中恵子